

似ていませんか

1. ササキリの幼虫

ササキリ、ヤブキリ、カヤキリと生息場所にかかわる名称で分けられているなかで、最も小型で1.5cmばかりのキリギリスの仲間です。出現は遅く、暑さの中でキリギリスが鳴き始めるようになってから林縁で幼虫が目につくようになります。それは目立つ配色だからです。ずんぐり体型で翅がないため、成虫のようなスマートさはなく、ササに化ける色でもありません。



ヨコヅナサシガメ
(カメムシ) の幼虫

幼虫は、若いほど黒と赤みのコントラストが強く、脱皮を繰り返して成長するとともに薄れていきます。後脚の白色部も際立っています。目立つわりに隠れるのではなく、葉の上面に止まっています。この自信は、カメムシの幼虫に擬態しているからだといわれています。

カメムシの幼虫の脱皮直後は赤色をしています、数時間後には同じものとは思えない本来の色に変わります。毒のないササキリは、この目立つ赤色で生き残っているのです。



ササキリの幼虫



ササキリの成虫

2. やいと花

筒状の先がフリルになっていて可愛らしい花ですが、中心が赤いところからお灸の痕を想像してヤイトバナとよばれています。日陰のものは花数が少なく葉が大きく、日向は花数が多く葉もしまっています。花後、黄色い実がついたつるは、クリスマスのリースによく使われているようです。

花や実の美しさに対して名前はそぐいません。ヘクソカズラだからです。屁と糞が一緒になったほど臭いところからの命



日向のヘクソカズラ



日陰のヘクソカズラ

名ですが、季節によって匂いは変わるようです。また、人によって感じ方も変わるようです。開花期は青臭いくらいですが、秋も深まるほどに臭くなる気がします。多汁で臭い実も冬を越し乾くと匂いが抜けます。匂いの成分はメルカプタンというイオウを含む悪臭成分で、本当に屁や糞便にも含まれる物質です。

この臭い植物でも、ホシホウジャクという昼間ハチドリのような飛翔をするガの幼虫の食草となっています。